

NISSHA 株式会社
「2018 年 12 月期第 1 四半期決算説明テレフォン・カンファレンス」
質疑応答の要旨
(2018 年 5 月 10 日開催)

Q1. デバイスの製品需要が落ち込むという想定の中、製品単価の下落はあるのか。

A1. 今のところ想定していない。

Q2. 下期の業績予測に変更はないとのことだが、デバイス事業の需要に関する見方はどうか。

A2. 一般論となってしまうが、(最終製品の) 販売価格が需要を左右するのではないかと、どんな製品ミックスになるかで変化する。

Q3. タブレット向けの製品需要に変化はないか。競合の参入状況はどうか。

A3. 変化はないとみている。安価モデルへの競合の参入はあるだろうが、これは当初の想定通り。むやみに価格競争に入っていくつもりはない。

Q4. Lens Technology との協業は 2019 年からとの理解だが、順調に進んでいるか。

A4. スケジュール通りに進んでいる。中国での生産能力を持つことになるが、スマートフォン、タブレット向け以外への展開も視野に入れている。

Q5. 産業資材事業の状況に変化はないか。

A5. 大きな変化はない。産業資材事業は変動の大きな PC 向けから撤退し、業績は安定して推移するだろう。

Q6. メディカルテクノロジー事業の状況はどうか。

A6. Q1 は、昨年買収したフランスの会社の買収に関わる費用が想定以上にかかった。Q2 以降は想定通り、堅調に推移するだろう。

Q7. 上期の業績下振れはデバイス事業の需要が想定以上に下がったからか。

A7. Q2 の生産量が減る見通しであり、工場稼働率が低下、固定費の回収が難しくなるため業績が下振れると予想。

Q8. タブレット向けの製品需要のピークはいつか。

A8. Q3 を想定している。

Q9. 為替感応度は。

A9. 1 円の変動で、売上高で 5 億円程度。営業利益で 0.5 億円程度。

Q10. 業績予想の修正において、メディカルテクノロジー事業、情報コミュニケーション事業で EBITDA が押し下がっている理由は何か。

A10. Q1 の実績を反映したもの。メディカルテクノロジー事業は昨年に行った買収に関わる費用が想定を上回った。情報コミュニケーション事業は競争環境が厳しい。

Q11. 設備投資額の計画に変更はないか。

A11. 通期で 170 億円を計画していたが、Q1 の実績を踏まえるとやや少なくなるかもしれない。

以 上